

# クリーン四国

No.1213  
2021年  
4月号



令和3年度 新規採用者

## 目次

・ 治山・林道工事コンクール表彰 .....	2
・ 技術試験地を団地化しました .....	4
・ 令和3年度入庁式 .....	5
・ 各署等のたより .....	6
・ 新任者略歴紹介 .....	11
・ 年間行事予定 .....	12



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 治山・林道工事コンクール表彰

## ◇優秀、優良工事施工業者・技術者・監督職員を表彰

〈局 総務課〉  
 〈局 治山課〉  
 〈局 森林整備課〉

受賞者は次のとおりです。

代表取締役 松下 充宏

3月15日、四国森林管理局において、令和2年度治山・林道工事コンクールの表彰式を行いました。令和元年度に完成した工事を対象に、4つのテーマ（コスト縮減、技術提案、環境配慮、施工管理）で審査を行い、

ス感染拡大の影響で中止となったことから、四国森林管理局において行いました。また長官賞については担当技術者並びに監督職員に対しても表彰を行いました。

事業の効果が顕著であり、内容が良好で他の模範となると認められる工事で、特に優秀なものを林野庁へ推薦し、3社（治山1社、林道2社）が長官賞を受賞されました。また12社（治山9社、林道3社）が、四国森林管理局長賞を受賞されました。



局長から表彰状授与

- ◆林野庁長官賞（敬称略）
  - 別府山（52）水源地域整備工事（翌債）
    - 〈高知中部森林管理署発注〉
    - 有限会社西野建設
    - 代表取締役 西野 桂
  - 中川林道災害復旧工事（翌債）
    - 〈安芸森林管理署発注〉
    - 湯浅建設株式会社
    - 代表取締役社長 湯浅 雅喜
  - 船頭山林道災害復旧工事（明許）
    - 〈四国森林管理局発注〉
    - 有限会社十和建設
- ◆四国森林管理局長賞（敬称略）
  - 【工事表彰】
    - 祖谷川地区樫尾（上）地すべり防止工事（国債）
      - 〈徳島森林管理署発注〉
      - 有限会社上西組
      - 代表取締役 上西 光男
    - 阿津江地区阿津江（Cブロック）地すべり防止工事（明許）
      - 〈徳島森林管理署発注〉
      - 株式会社山全
      - 代表取締役 牛尾 正治
    - 小島（67）復旧治山工事（明許）



《徳島森林管理署発注》

中石・赤松経常建設共同企業体

代表者 中石 昭

○榎原（43）復旧治山工事（明許）

《香川森林管理事務所発注》

大西建設株式会社

代表取締役 衣斐 恵美子

○笹郷山（2015）復旧治山工事

（国債）

《愛媛森林管理署発注》

一若建設株式会社

代表取締役 中畑 健右

○東大戸山（1309）復旧治山工

事（翌債）

《四万十森林管理署発注》

協業組合テスク

代表理事 池本 成志

○仁尾ヶ内山（48）復旧治山工事（国

債）

《嶺北森林管理署発注》

明治建設有限会社

代表取締役 川崎 篤志

○尾続山（2070）復旧治山工事

（翌債）

《安芸森林管理署発注》

湯浅建設株式会社

代表取締役社長 湯浅 雅喜

○大道南山（1164）災害関連緊

急工事（翌債）

《安芸森林管理署発注》

山下・森本経常建設共同企業体

代表者 山下 政司

○大中山林道災害復旧工事（明許）

《四万十森林管理署発注》

株式会社 田邊建設

代表取締役 田邊 一也

○森ヶ内林道改良工事

《四万十森林管理署発注》

株式会社 生田組

代表取締役 生田 政嗣

○名野谷225林業専用道新設工事

《嶺北森林管理署発注》

株式会社 晃立

代表取締役社長 嶋崎 勝昭

【技術者表彰】

○別府山（52）水源地域整備工事（翌

債）

現場代理人

主任技術者 坂本 憲正

（有限会社西野建設）

監督職員 宮脇 健一

（高知中部森林管理署）

○中川林道災害復旧工事（翌債）

現場代理人 村上 弘晃

主任技術者 近藤 稔

（湯浅建設株式会社）

監督職員 西山 秀男

（安芸森林管理署）

○船頭山林道災害復旧工事（明許）

現場代理人

主任技術者 宮脇 浩明

（有限会社 十和建設）

監督職員 清岡 英章

（四国森林管理局）



受賞された皆様



# 技術試験地を 団地化しました

## 香川所・嶺北署に設定 （令和2年度末）

〈森林技術・支援センター〉

現在、多くの人工林が利用期を迎え、今後、資源を有効活用するための主伐の増加に伴い、計画的な再造林を進めることが重要となっています。一方、計画的かつ確実な再造林を実施するにあたり、増加するシカやノウサギ等による食害への防護対策に多大なコストがかかるなど、造林技術の見直しやコストの削減が喫緊の課題となっています。

これまで冬下刈りや早生樹育成等の保育作業の見直し、低コスト試験を各署等のフィールドを利用して実施してきましたが、試験地は広範囲に散在し移動に長時間を要するため、試験の効率化や試験成果の民有林等への普及等が難しい状況でした。

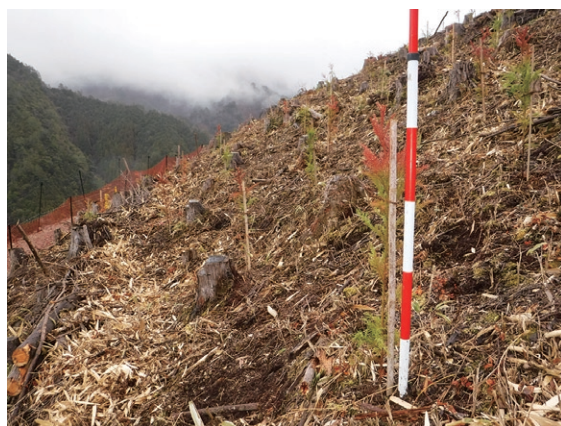
このため森林技術・支援センターでは、試験地へのアクセスが良く、一度に各種の試験が実施・見学できる「集約化試験団地」を香川森林管

理事務所及び嶺北森林管理署管内の国有林に設置しました。

香川試験団地（香川県高松市塩江町鷹山国有林）

嶺北試験団地（高知県の町戸中葛箆谷黒滝山国有林）

試験団地では、低コスト造林、コウヨウザンやチャンチンモドキ等の早生樹の育成試験等に取り組んでおり、具体的には、「①大苗と施肥を



スギの大苗



コウヨウザンの苗木



使用した低コスト造林試験、②早生樹の造林技術の確立試験、③地帯省略における苗木の成長調査等比較試験、④下刈時期（夏・冬下刈り）の違いによる検証試験、⑤単木保護資材（5種類）による獣害対策の検証試験」の5つの試験を1箇所のフィールドで実施しています。

また、各試験地には獣害防護柵（防護ネット）を設置していますが、国有林の職員をはじめ、どのような防護柵があるのか見たことがない市町村職員等も多くおり、その施工や防護効果等も十分に検証されていないことから、5タイプの防護柵を設置しています。

2箇所の試験団地は、公道からのアクセスが良いことから、低コスト造林や早生樹育成の現地検討会・勉強会を民有林関係者を含め積極的に実施する予定です。また、各種の試験データを収集し、得られた成果等については、積極的に普及していきたいと考えています。

なお、各種試験等についての問い合わせは、森林技術・支援センターまでお願いします。

TEL 0888-1821-12250  
E-mail:shikoku\_gijyutu@maff.go.jp

## 入庁式

### （8名の新規採用）

〈局総務課〉

令和3年度四国森林管理局新規採用者8名の入庁式を4月1日、局議室において行いました。



石垣英司四国森林管理局長から、新規採用者に辞令が交付され、入庁者を代表して局保全課に配属された阪上優華さんが宣誓を行いました。

局長からは、新社会人となった8名に、「入庁おめでとうございませう。これから、局署等での研修等があります。いろいろな吸収し、頑張ってください。また、公務員は、国民全体の奉仕者であることを自覚してほしい。農林水産省職員として、国民の期待を受け止め、時代の変化を見通して政策を提案しその実現に全力で行動する」という、「ビジョン・ステートメント」を念頭に業務にあたってほしい。最後に、何よりも健康が第一なので、心身ともに気をつけてください」と訓示がありました。

新採の皆さんは、配属された部署で、勤務することになりますので、皆様よろしく願います。

入庁おめでとうございませう。

表紙写真前列右側から

千崎 怜さん（愛媛署）

岩原 慶季さん（徳島署）

原口 翔吾さん（四万十署）

重石 大地さん（安芸署）

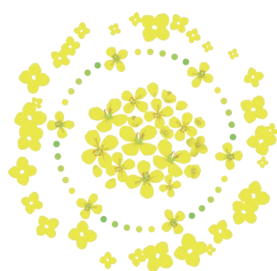
石垣 英司局長

阪上 優華さん（局保全課）

重松 友希さん（愛媛署）

楠瀬 博也さん（香川所）

山口 大喜さん（局森林整備課）



# 各署等のたより



## 森林環境教育講座を開催

～幡多農業高校～

〈四万十森林管理署〉

四万十森林管理署では、2月15日に、高知県立幡多農業高校の課題研究校外学習として、森林環境教育講座を行いました。今回の講座は学校側から「林業に関する現状と課題を学習し、生徒たちに何か出来ることはないか考えさせたい」との要請があったものであり、森裕一自然再生指導官、渡辺督巳総括森林整備官、齋藤充治主任森林整備官が講師として、グリーン環境科2年生6名を対象に当署会議室で実施しました。

講座に先立ち前田利雄署長からは「今回の講座を通じて林業の現状と課題を理解してもらうとともに、国有林の仕事に興味を持ち、出来ればこの職場を目指してほしい」と挨拶

がありました。



前田署長の挨拶

その後、齋藤充治主任森林整備官から「林業の現状と課題」の説明があり、①慢性的な人手不足、高知県の林業従事者は40年前に比べ4分の1に減少し、高齢化も進んでいること、②木材価格の下落、木材価格は1980年から3分の1に低下、一

方、物価は約1.5倍になっていること、③そのため林業従事者の給料が減少し、従事する人たちが減っていく悪循環に陥っている林業の現状を説明しました。



齋藤主任森林整備官の講義

このような現状を改善するため、国有林では、①植栽時期の影響を受けないコンテナ苗の活用、②生産事業に引き続き更新（造林事業）を同一業者が行うことにより造林事業のコスト低減を図る、③スギ・ヒノキよりも生育速度の良い早生樹（コウヨウザン）を植栽し、これまで50～60年を要していた植栽から伐採のサイクルを短くすることにより、トー

タルコストを下げる取組を行っていることを説明しました。

また、全国的に問題となっている二ホンジカの食害に関して、高知県内のシカの生息数と幡多郡内における各市町村のシカ捕獲数について説明すると、生徒の皆さんはその実態に衝撃を受けていました。

講座後の質疑タイムでは、「林業の仕事をするに当たって気をつけていることは？」と質問があり、「林業は自然が相手の仕事なので、日々作業環境が変動する。さらに、林業現場では重機やチェーンソー等を使うため危険な作業が多いことから、安全第一で作業している」と回答しました。

最後に幡多農業高校卒業生である森自然再生指導官から、「今回の講座で林業の現状と課題、国有林が行っている取組が理解できたと思う。ぜひ皆さんも公務員試験に向けて頑張ってください」と激励がありました。今回の講座では、林業を取り巻く厳しい現状と、その課題解決に向けて私たち国有林が行っている様々な取組を高校生の皆さんに理解していただきました。



コロナ禍でこうした取組が難しい側面もありますが、今後色々な機会を通して森林環境教育の取り組みを行い、森林・林業に携わる人材育成に努めていきたいと考えています。

## インターンシップを実施

〈四万十森林管理署〉

四万十森林管理署では、2月24日から26日の3日間、令和2年度春期のインターンシップ（就業体験実習）として、国立大学法人筑波大学から1名の学生を受け入れました。

今回のインターンシップは、3日間という短期間であったことから、各事業現地での見学・体験を主体に実施しました。

初日は、署長・次長から高知県西部・四万十川流域での森林・林業の現状と当署の概要を説明後、現地に赴き、収穫調査や測定業務の体験、また、早生樹のコウヨウザン三世代プロジェクト試験地を見学しました。収穫調査では調査の目的や方法

を説明、実際に胸高直径と樹高を計測しました。測定業務では、一般道と国有林との境界でトランシットによる測量を行い、境界標を確認しました。コウヨウザンの試験地では、第二世代の伐根から多数のぼう芽枝が発生しており、コウヨウザンの天然更新による生産技術が確立されれば、造林コストの大幅な削減に貢献することを学習しました。



コウヨウザン試験地見学の様子



トランシット測量実習の様子

2日目は、保育間伐（活用型）の素材生産事業地及び搬出した木材を集積販売している土場、造林事業地、林業専用道新設工事での監督業務について学習しました。保育間伐（活用型）では、高性能林業機械による集材、造材、運搬、巻立の一連作業を見学後、今年度、新たに整備したストックヤード「竹島土場」で、丸太の径級・長級・品等別に仕分けを行い販売していることを学習しまし

た。また、造林事業地では、実際にコンテナ苗の植栽を体験し、苗木が活着するにはシカ、野ウサギ等の獣害対策が欠かせないことを学習しました。林業専用道の新設箇所では、森林整備のため作業道が延長されるなかで、幹線となる林道をいかに低コストで開設するのが重要であり、その一方で、半永久的な整備を目指すのではなく、適宜修復しながら使用することを前提とした路網整備も重要であることを学習しました。



コンテナ苗植栽体験

3日目は、復旧治山工事における監督業務と入野松原においてマツくい虫防除を学習しました。復旧治山



工事では、現場毎に環境・地形・地質等の条件が異なるため、その現場により臨機応変で対処しており、地域住民及び地元行政との繋がりが重要であることを学習しました。入野松原においては、海岸林の所有形態が町有林、県有林、国有林であり、林内に農作物の畑も共存していることから、松くい虫防除の有効手段である地上散布の時期についても、農作物に影響しないよう考慮していることを学習しました。

インターシップに参加した学生からは、「現場を見て、大学の講義内だけでは絶対に得ることができないことを感じた。法律や政策ももちろん大事だが、それを施行したからといって単純な因果律で物事は解決しないこと、森林は、現場での細やかな対応や地道な取組が重要であることを実感した」と感想が寄せられました。

今後においても、当署では、国有林野事業及び森林管理署の業務への理解を深めようするため、インターシップを実施していきます。

## 中村小学校で森林環境教育

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川ふれあい推進センターでは、3月9日、11日の両日、四万十市立中村小学校の2年生50名、1年生37名を対象とした森林環境教育（森林・木工教室）を行いました。

最初に、「森の木に被害を与えている動物は何か知っていますか」と児童達に質問したところ、「クマ、イノシシ、サル、タヌキ、ウサギ、シカ」と元気に答えが返ってきました。当センターでは、森林教室を行っていることのほか、増えすぎたニホンジカの被害から森林を守る仕事もしていることを説明しました。

次に自然を大切に作る気持ちをもってもらうため、樹木の冬芽が春の芽吹きに備えて前の年から芽（葉っぱと花の赤ちゃん）を準備している様子を学んでもらいました。

また、「学校の校庭にはキンモクセイやムクゲ、プラタナスなど76本もの木があり、それぞれ名札も掛かっています。葉っぱの形が変わることや花が咲きタネができて飛ぶこ

と、また木にはさまざまな虫が生息し、季節によっていろいろな鳥たちもやって来ます。校庭の木などを観察してみたら楽しいと思います」と説明しました。

その後は、児童達が楽しみにしていた木工クラフト製作です。児童ひとり、①ヤマザクラやヒメシヤラなどの木の鉛筆作り、②くまモン、みぎゃんのゆるきやらなどの5種類の製作用キットの中から1つを選んでアークセサリーを作り、③森のかけら（スギ間伐木の輪切り使用）で自由製作（いろいろな材料や部品を組み合わせる）に挑戦してもらいました。

生徒たちは、「これどうしたらいいか?」「これお願いできませんか」とセンター職員に聞きながら、それぞれが工夫して個性あふれる作品を作っていました。

今回の森林環境教育を通して木材の良さや自然の大切さを身近に感じてもらえたと思います。

当センターでは、今後このような森林環境教育を通じて、森林への理解を深めるきっかけとなる取組を積極的に続けていきたいと考えています。



1年生、木工クラフト製作の様子（3月11日）



2年生、木工クラフト製作の様子（3月9日）



作品できたよ。やったね。



## 東中筋小学校の全学年に 森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十市立東中筋小学校の全学年を対象とした森林環境教育は平成30年度から実施しています。

今年度は、12月18日に木工クラブ学習（1〜4年生23名）を、1月20日にシイタケの駒打ち体験（5年生12名）を、3月3日に土にすむ生物と山・川・海のつながり（6年生16名）を実施しました。



木工クラブ制作の様子

12月に行った木工クラブ学習では、私たちの暮らしに欠かせない木材の特徴を説明と大王松の松ぼっくりをクリスマスツリーに見立てた置物を作りました。児童達は、サンタクロスやトナカイ、雪だるまや教会等に切り抜いて色を塗ったファルカタ材（桐板の代用品）を接着剤でスギやヒノキの台座に貼り付け、松ぼっくりに木の実や木片、ビーズ等で装飾して思い思いの作品を完成させました。

木工クラブ体験を通して、木を持つ温もりと素材としての木材の良さを十分に感じてもらえたものと思います。児童の感想文には、「毎回違う作品が作れて毎年すごく楽しみ」とうれしそうに書かれていました。

また、1月に行ったシイタケの駒打ちでは、校庭で電動ドリルの穴開け方法や作業の注意点などを実演を交えて説明した後、5班に分かれて駒打ち体験を行いました。

みんなが協力して手際良く作業を進め、クヌギの原木に種駒を木槌で打ち込んで「ほど木」50本を完成させました。児童の感想文には「電動



シイタケの駒打ち体験の様子

ドリルを使った穴開けは初めてだったので少し怖いなと思っていただけやってみるととても楽しくてもっとしたいなと思いました。おじいちゃんがシイタケを育てているけど仕組みがわからなかったけど知れたので、また作る時はおじいちゃんと一緒にできたらいいなと思いました」と書かれてありました。

3月に行った土にすむ生物と山・川・海のつながりの学習では、「森林と私たちの暮らしの関わり」「土壌層の違いや土壌動物・土壌微生物の種類とその役割」について説明しました。その後、児童達が昨年の12月に畑に埋めておいた「ミカンの皮」落





土を掘り起こしている様子を観察

ち葉」「ペットボトル・空き缶」がどのように変化しているか掘り起こして観察しました。「ミカンの皮」は繊維がスカスカになって、「落ち葉」はボロボロに腐っていることを確かめました。また、掘り起こした土のおいを嗅いでもらうと、落ち葉を埋めていたところの土は他よりにおいが濃いとの感想でした。



顕微鏡や画像で土にすむ生物を観察している様子

冬場の実験だったので、分解があまり進んでいませんでしたが、土中の微生物は「ミカンの皮」や「落ち葉」の有機物を分解して、再び植物が根から吸収・利用できる養分（ミネラルなどの無機養分）にしていることを説明しました。一方、「ペットボトル・空き缶」は全く分解されていないことを確かめました。生徒たちはゴミを捨てないことの大切さを理解してくれました。

ミカンの皮や落ち葉を埋めた所の土を採取して調べる観察では、実体顕微鏡（倍率20〜30倍）を真剣に覗きながら生き物を探しました。ダンゴムシやダニ、線虫類、活発に動いているけど何かはわからない生き物の姿をスクリーンに映し出すたび、児童達は、「ここにいる」「これは何だ」「生き物が土を食べている」と歓声を上げながら真剣に観察していました。

最後に児童から「この講義と観察を通して土にすむ生物の存在に気づきました」と感想がありました。この学習を通して、普段は目には見えない土にすむ生物が土を食べることにより、土の中に隙間を作り、耕す働きをして豊かな土をつくらせていることなどを、理解してもらうことができ、児童達の森林の大切さや木材利用への興味・関心が高まってくれることを期待しています。







# 新任者略歴紹介



徳島森林管理署長

島田 喜代司



- 昭和63年 4月 東京営林局事業部作業課採用
- 平成31年 4月 林野庁森林整備部整備課森林土木専門官(兼仙台森林管理署付)
- 令和 3年 4月 現職

嶺北森林管理署長

小笠原 建夫



- 昭和56年 4月 高知営林局経営部計画課採用
- 平成31年 4月 四国森林管理局安芸森林管理署次長
- 令和 3年 4月 現職

保全課長

増原 俊光



- 昭和59年 4月 高知営林局高知営林署経営課採用
- 平成31年 4月 四国森林管理局計画保全部流域管理調整官
- 令和 3年 4月 現職

森林整備課長

吉良 康



- 昭和57年 4月 高知営林局経営部計画課採用
- 平成30年 4月 四国森林管理局 資源活用課長
- 令和 3年 4月 現職

資源活用課長

内藤 晴敬



- 昭和63年 4月 林野庁林政部林政課採用
- 平成31年 4月 四国森林管理局 技術普及課長
- 令和 3年 4月 現職

技術普及課長

今村 英治



- 昭和57年 4月 高知営林局経営部計画課採用
- 平成30年 4月 四国森林管理局計画保全部保全課鑑定官
- 令和 3年 4月 現職

# 年間行事予定

令和3年度四国森林管理局管内で計画している行事の一覧です

予定時期	行 事 名	担 当 部 署	予 定 時 期
4月	吉野川上流治山事業所開所式	嶺北森林管理署	4月20日
	緑の募金(春期)	局技術普及課	街頭募金(4月18日) 募金期間(5月末まで)
5月	三嶺ボランティア作業(三嶺の森をまもるみんなの会との協賛)	高知中部森林管理署	下旬
6月	災害時情報収集演習	徳島森林管理署	
	四国森林管理局インターンシップ募集(夏期)	局総務課	
	架線集材におけるドローンを活用した資材運搬作業の現地検討会	安芸森林管理署	下旬
	森林環境教育(高知県立高知農業高等学校)	局技術普及課	下旬
7月	高知県立林業大学校の下刈り実習	高知中部森林管理署	下旬
8月	ドローン飛行現地検討会	徳島森林管理署	
9月	QGISの講習会	徳島森林管理署	9月
	ナラ枯れ被害防止対策現地検討会	四万十森林管理署	下旬
	令和3年度 技術力維持・向上対策研修	森林技術・支援センター	9月29日～10月1日
10月	列状間伐に関する現地検討会	徳島森林管理署	
	架線系搬出システム現地検討会	愛媛森林管理署	上旬
	LPWA を活用した IOT 捕獲通知システム現地検討会	高知中部森林管理署	中旬
	三嶺ボランティア作業(三嶺の森をまもるみんなの会との協賛)	高知中部森林管理署	中旬
	複層林における間伐実施の影響検討会	局計画課	
11月	列状間伐実施後10年経過した団地での現地検討会	四万十森林管理署	上旬
	高知県立林業大学校のシカネット設置・地拵え実習	高知中部森林管理署	上旬
	列状間伐に関する現地検討会	香川森林管理事務所	
	令和3年度 林業成長産業化構想技術者育成研修	森林技術・支援センター	11月9日～12日
	列状間伐実施後、1回目15年経過・2回目3年経過した団地での現地検討会	高知中部森林管理署	中旬
12月	国有林モニター募集	局企画調整課	
	四国森林管理局インターンシップ募集(春期)	局総務課	
1月	多様な森づくり“見える化”プロジェクト現地検討会	四万十森林管理署	下旬
	四国森林・林業研究発表会	局技術普及課	下旬
2月	高知県立林業大学校の苗木植栽実習	高知中部森林管理署	下旬
時期未定	カメラ付ローピンググラップルを活用した架線集材システムの現地検討会	安芸森林管理署	